

「いつまでも華麗に加齢を！」



デンタルみつはし 歯科衛生士
増田 佳子

歯科衛生士学校を卒業、国家試験に合格し、希望に燃えて歯科治療の臨床現場に飛び込み、休日返上で勉強会に参加しながら研鑽を積み磨いた歯科衛生士としてのキャリア。ようやく掴んだそのキャリアを結婚、出産を機に離職してしまう衛生士が多いと聞きます。

たとえ復職しても加齢による体力の衰えと相まって、40歳過ぎには殆どの衛生士は2度目の離職をしていきます。

私も結婚を機に一度は衛生士の職から離れましたが、35歳で復職。それなりに仕事をこなしてはいましたが、45歳過ぎに老眼の傾向が現れ始めました。もともと視力の良かった私は老眼鏡をかけての診療には抵抗が強く、肉眼でのハイジーンワークを続けていました。

しかし無理な姿勢からくる腰痛の発症と、さらには更年期の体調の変化も加わり、ついに47歳にして顕微鏡歯科診療にチャレンジすることにしました。

顕微鏡治療を始めた当初は両目で顕微鏡を覗くことすらままならず、立体視するまでに半年ほど掛かりました。更にミラーテクニック、ポジショニングなどを覚えるまでには数ヶ月を要しました。その間、様々な苦労が続きましたが、今では常時、全ての患者さんに顕微鏡をスムーズに使えるようになりました。もちろん老眼の不安もなくなり、腰痛の心配から開放され、日々楽しく診療を続けています。

本講演では、47歳を過ぎてから顕微鏡歯科に取り組んで5年を経た経験と、その中で掴んだ顕微鏡下ハイジーンワークを快適に行なうための必須アイテム、工夫、注意点を症例を交えてお話します。顕微鏡歯科治療により一人でも多くの衛生士が老眼、腰痛の不安から解放され、いつまでもワクワク楽しい華麗（加齢？）な歯科衛生士人生を送るためのヒ・ミ・ツをお伝えします。